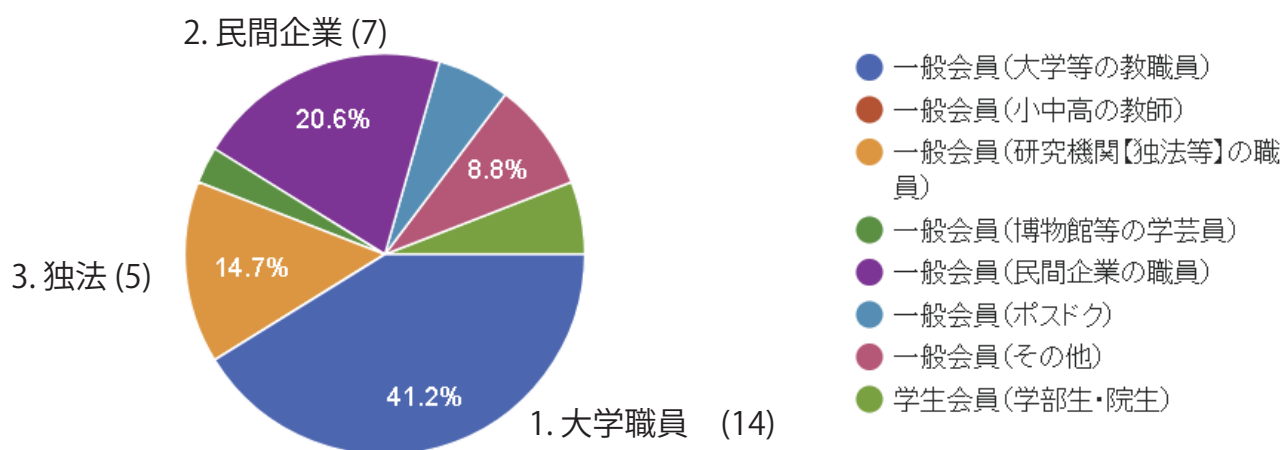


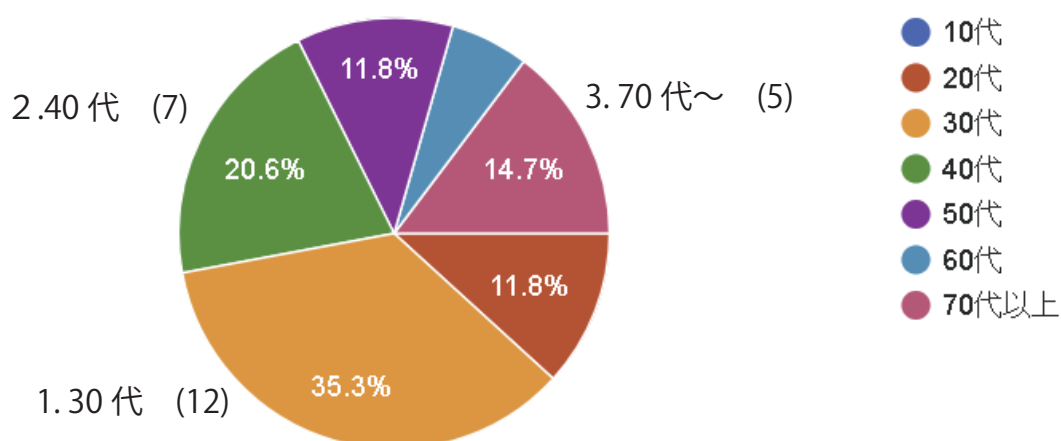
Q1. 回答者の会員区分を1つお選びください.

34 件の回答



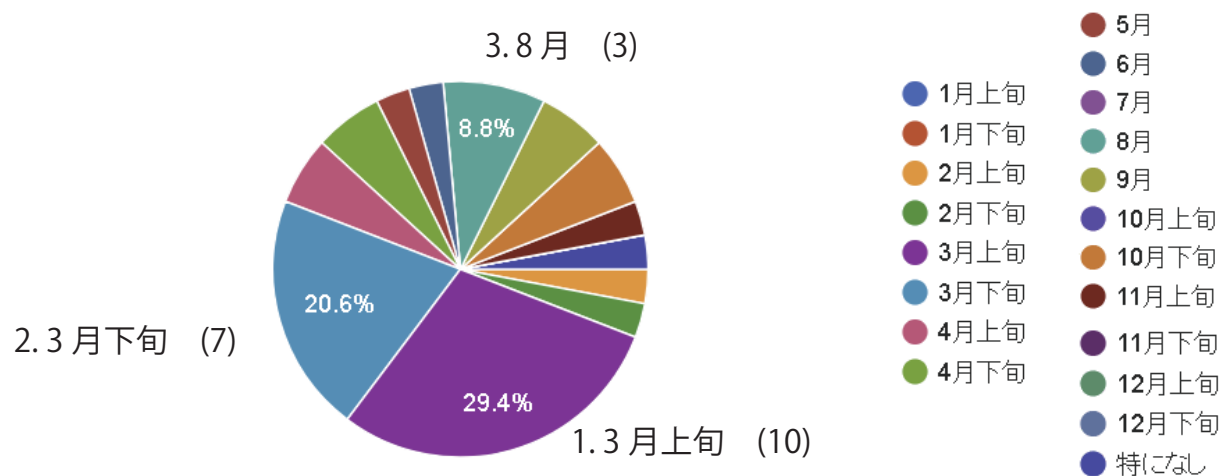
Q2. 回答者の年齢層をお選びください.

34 件の回答



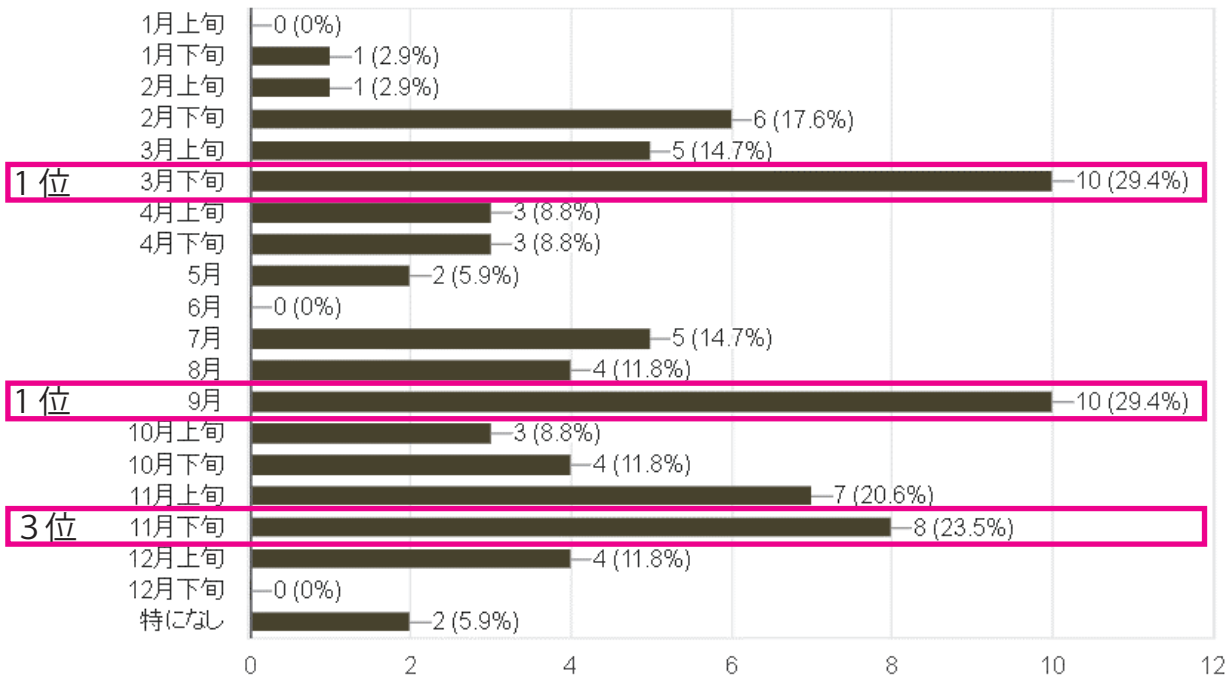
Q3. 日本堆積学会学術大会の開催時期として、最も適切だと思う時期をお選びください(1つ選択; 必須).

34 件の回答



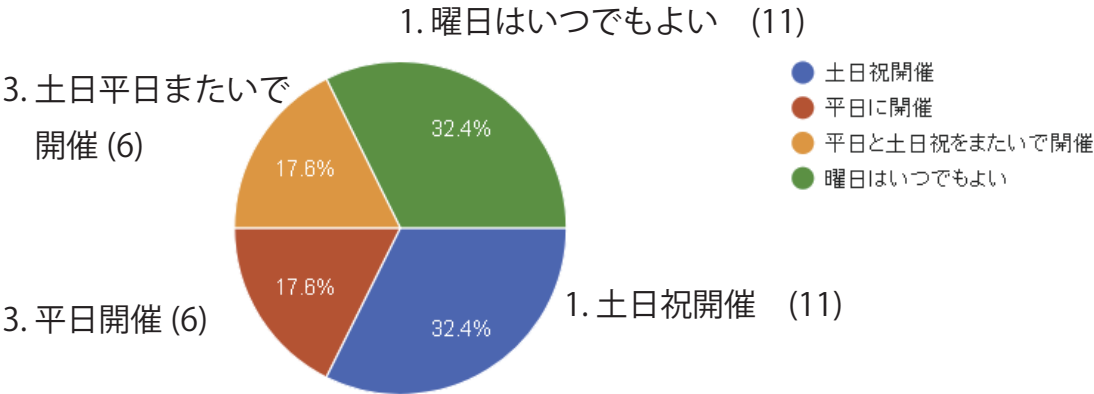
Q4. 日本堆積学会学術大会の開催時期として、Q3で回答した時期以外で、適切だと思う時期をお選びください(最大3つまで; 自由回答).

34 件の回答



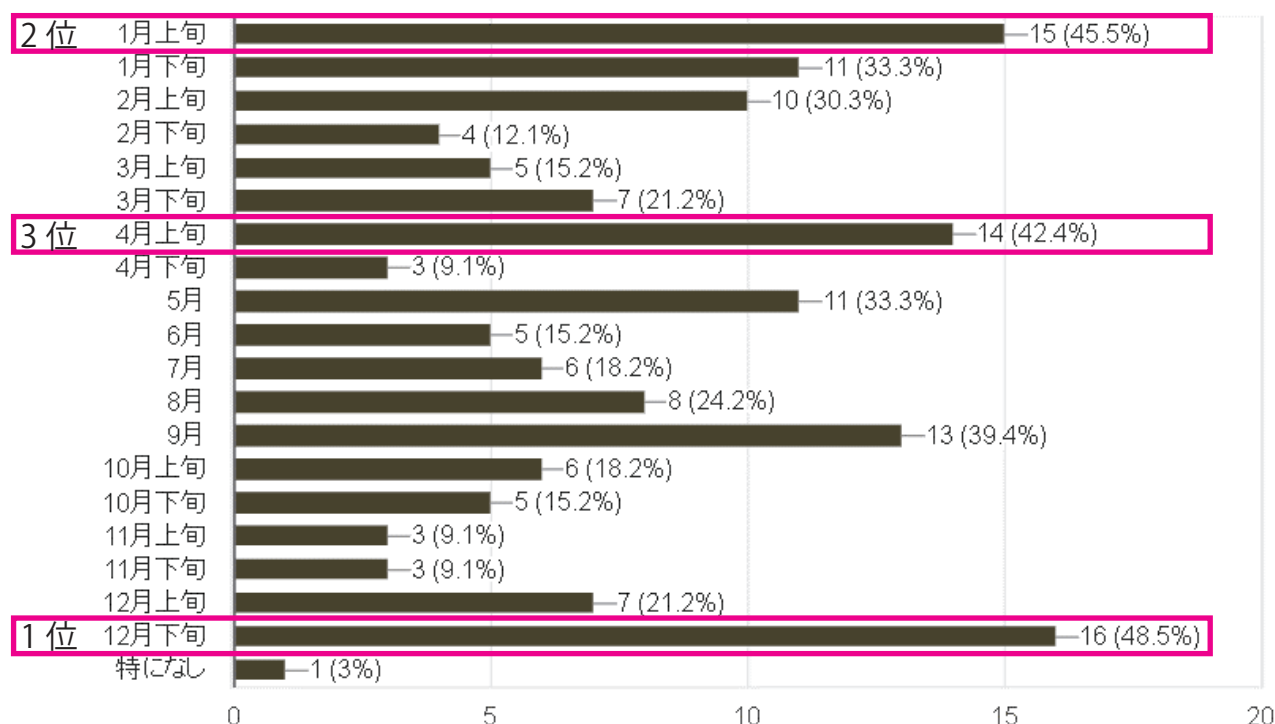
Q5. 日本堆積学会学術大会の開催する曜日について、ご希望をお選びください (1つ選択; 必須).

34 件の回答



Q6. 日本堆積学会学術大会の開催時期として、避けてほしい時期があればお選びください(複数回答可; 自由回答).

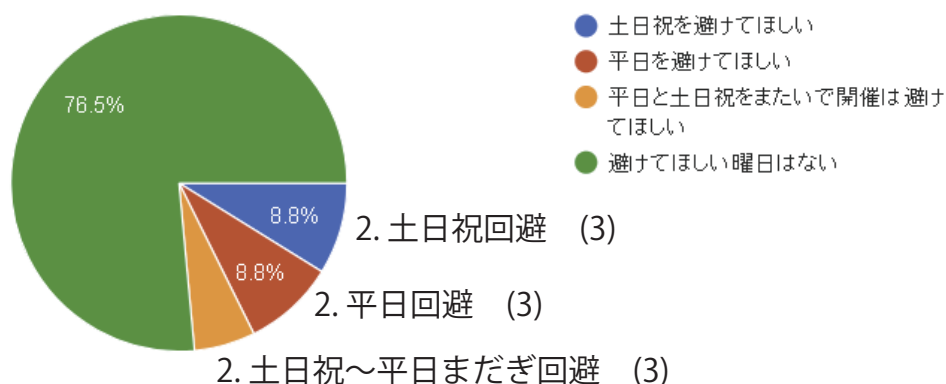
33 件の回答



Q7. 日本堆積学会学術大会の開催する曜日について、避けてほしい曜日をお選びください(1つ選択; 必須).

34 件の回答

1. 避けてほしい
曜日無し (26)



- 土日祝を避けてほしい
- 平日を避けてほしい
- 平日と土日祝をまたいで開催は避けてほしい
- 避けてほしい曜日はない

Q8. 日本堆積学会が実施する「堆積学スクール」について、テーマや実施内容にご希望・ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください(自由回答).

8 件の回答

普通の「堆積相の観察手法」のスクールが開催されることを希望します。「普通」のことだからこそ、何も知らない人にも伝えた方がよいと思うので
堆積学スクールはすごく意義深いので、学会として頑張ってやって下さるとよいと思います。
堆積学会会員でない学部学生や学校教員などに参加して欲しいなら、夏休み期間中に開催したほうがよい。
“Provenance analysis”
これまでも行われてきたように、実際に手を動かせる実習形式が良いと思われる。
老人も参加できると幸いと思うことがあります。
野外(露頭など)で行う学生向けの堆積学トレーニング講座があるといひのでは？ 学会巡検のように複数の地点を回るのはではなく、1-2箇所に留まってスケッチや柱状図の作成方法や簡単な分析手法等、基礎から得られる堆積学の面白さを学生に知ってもらふ。非会員(学部生)の参加を促すことで学生会員を増やすことに繋がるのでは？ ※回答者は、堆積学スクールはもっと専門的であったり、相応の施設や器具が必要な研究に触れる機会だと捉えている
参加できなかった場合に資料だけでも欲しい(有料でもよいので)

Q9. 日本堆積学会が発刊する「堆積学研究」で扱ってほしい記事や構成の改善策について、ご希望・ご意見がありましたら、ご自由にご記入ください(自由回答).

7 件の回答

特にありません
堆積物の研究法に関する研究紹介的な内容が良いような気がします。この際、ちゃんとした論文は英文化して国際誌に投稿して頂くことを奨励されるのがよいでしょう。投稿のサポートなどされると更によいかも知れません。
堆積学の一部は、diagenesis について、変成岩・変成作用と関係が深い。その点を考慮して、議論を進める必要がある。
研究動向紹介があっても良いと思う。SEPMのThe Sedimentary Recordのような記事も良いかと思われる。
気楽に書ける欄があると良いと思います。
論文数の減少について思うこととして、年発刊数を増やすことはやはり難しいだろうか... もっと気軽に投稿できる雑誌にしたい。(個人的に、退官された先生方が書かれた原稿をもっと読んでみたいと思うことがある。ここ最近では水谷先生原稿が興味深かった。先生方の視点を知りたい)
世界の堆積学の新しい重要ニュースの紹介やこれから若手が解決すべき堆積学課題についてのコラムがあれば興味深い(「物理学70の不思議」みたいなもの)

Q10. 日本堆積学会に対して、学会への要望・ご意見などありましたら、ご自由にご記入ください(自由回答).

11 件の回答

堆積学会は規模が小さくとも堆積学スクールを開催するなどアクティビティが高く、また活発な研究交流ができることから、非常に優れた学会だと思います。この体制が維持されることを希望します。
現状では日本堆積学会と日本地質学会堆積地質部会はほぼ同じ陣容で、ほぼ同じ内容の発表しか無いようにお見受けします。9月の地質学会と5月の連合大会の堆積セッションを共催開催とするだけでも2回/年の発表機会は担保されますので、これで十分ではないでしょうか？今の国際化の時代には、国内での発表件数を1~2回程度に減らして、特に若手にはできるだけ海外の学会にエントリーして英語で発表していただくのがいいと思います。
難しいかもしれませんが、早めに学術大会の開催日程・場所は告知していただきたいです(できれば前年度の大会には)。
学会 ホームページに、堆積学会2018年大会の案内、ISC2018 Quebec の案内 が掲載されていないのは残念。
学会の秋(10~12月)開催は、他の学会の開催時期などを考えると避けて欲しい。
これまでのように、こうして、公開方式で、運営されていて、好感もてる。
産官学連携を訴えるのであれば、もっと外へのアピールや売り込みが必要だと感じている。
予算の都合上、4月開催の参加は難しいことと、次大会も開催日時が早く把握できないと参加が難しいです。
1:自由で民主的な雰囲気を持続して欲しいと思います。2:もう少し学際的にウイングを広げてはどうでしょうか。3:賞はこれ以上増やさない方がよいと思います。下手をすると、結果であるべきものが目的になり、学問の本質と関係ないものになりかねません。警戒してください。
学術大会の開催が同じ年度で2回にならないようにしてほしい(例: 2015.4と2016.3)
分野横断の取り組み増加と他分野からの参入がしやすくなれば良い